MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

News Letter 中部大学民族資料博物館

vol.02
March 2012

平成23年度
秋季連続講演 好評に終わる

当館は、大学博物館として昨年４月にリニューアルオープンするにあたり、常設展示に「シルクロード室」を新設し、シルクロード周辺の地域に関連する絵画や彫刻、工芸品を展示しています。また、世界各国の歴史資料や民族資料を多く所蔵しています。

開館記念として今年度は「シルクロード企画」と題してさまざまな行事を企画しました。秋季は、連続三回にわたる講演を企画し、染織史、民族学、美術史の各専門の研究者を招き、「シルクロードと織物」、「シルクロードと人類の移動」、「美の起源について考える」とそれぞれテーマを設けた内容の講演を開催しました。

秋季連続講演における聴衆の表情より

秋季連続講演チラシ

各回に共通していましたのは、歴史や文化をみつめる視点が、より広く、大きく、さまざまな分野の観点を比較したり、見直していくなかで日々新しい発想や発見が生まれているという研究現場の現状を再認識できたことにあります。

世界のあり様を、個別の特徴を知る一方で、人類共通の普遍性について問い直す、実は奥深いテーマを垣間見ることができ、参加した人びと全員が思索の旅を楽しむ時間となりました。その結果、学内外からの参加者を含め、今後もこうした講演実施へ期待を寄せる声を多くいただきました。

索引

平成23年度 秋季連続講演好評に終わる 1

2011 秋季行事報告

◇シルクロード企画 秋季連続講演 2
シルクロードと織物「カシミアショールとペイズリー文様」について
民族資料博物館副館長　宇治谷　恵
シルクロードと人類の移動
民族資料博物館館長　和﨑春日
美の起源について考える 3
人文学部共通教育科 教授　千葉成夫

◇シルクロード企画展示［2011 秋季展示］
「カシミアショールとペイズリー文様」
民族資料博物館副館長　宇治谷　恵

◇宮本正興教授　退職記念展
宮本正興とアフリカ世界「人と人は出逢う」 4
国際関係学科教授　青木澄夫

◇文化講演
「食文化と博物館 食べるフィールドワーク」 4
中国語中国関係学科 教授　渡邊欣雄

◇開館記念特別講座
「古典絵画（絹絵）を描く」受講生作品展 5
児童教育学科 准教授　下川辰彦

◇コラム
「平成23年度大学行事に参加をして」 6
民族資料博物館　原田千夏子

◇トピック１
IS プラズマ(国際学会) 開催に向けて
シルクロード室、オセアニア地域エリアに英語表示の設置 7

◇トピック２
バーミヤーン壁画模写の貸出し 8

今後の行事予定

11月

■ シルクロード企画

シルクロード企画　秋季連続講演

‖ 会場 ‖ 中部大学リサーチセンター

■ 連続講演１｜11月15日(火) 14：00～｜

講師：道明三保子 氏（文化学園大学名誉教授）　司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

シルクロードと織物「カシミアショールとペイズリー文様」について

「フィールドワーク、そして対話と学び」

秋たけなわの日、秋季連続講演の第一回目として、また秋の企画展の関連イベントとして、文化学園大学名誉教授・道明三保子氏により「シルクロードと織物～カシミアショールとペイズリー文様」と題した講演会を開催した。

当日は、道明氏の豊富なフィールドワークにもとづく語りに多くの参加者が熱心に聞き入るだけでなく、さらに講演会終了後には展示室にてギャラリートークも開催することができ、道明氏と参加者が展示物を題材としてより身近に対話することができた。

いわゆる講演会は、講座や講話などを通して、専門家から様々な学びを得ることであるが、それは多くの場合受け身の姿勢である。

それに対し、博物館での講演会は、学びの目的を達成するために、参加者たちが自ら主体的に参加するフィールドワークなのである。具体的には展示物や資料に関して互いに対話することであり、何よりの強みは、実物がそこにあることなのである。

今後とも、教室だけでの講演会だけでなく、展示室でのギャラリートークや資料を題材とした企画を計画したい。博物館はフィールドワークの場であり、対話と学びの場なのである。（宇治谷）

講演風景（左・講師 道明三保子氏）

■ 連続講演２｜11月24日(木) 14：00～｜

講師：嶋田義仁 氏（名古屋大学大学院文学研究科 教授）　司会：和﨑春日（民族資料博物館長・国際関係学部長）

「シルクロードと人類の移動」

本講演では、哲学をベースに、日本の稲作文化と神話の関わり、祭礼などの成り立ちからはじめ、自然環境をキーワードに、シルクロードを含むユーラシア大陸諸地域からアフリカまで、農耕牧畜による生活形態をみていくと、実は「乾燥地帯」として共通した多くの要素をみつけることができるという。

多くの民族が共存し、交易し、地域を移動してきたなかで、文明の発達や宗教の成り立ちがその土地のさまざまな環境と密接にかかわってきたことがみてとれるのではないか、という提言がされた。

行事終了後のアンケートでは、「人類のルーツについて新しい観点を知り、とても参考になった」というような強い関心を示す感想が多く寄せられ、おおむね好評を得た。（和﨑）

講演風景（中央・講師 嶋田義仁氏）

■ 連続講演３｜12月１日（木）14：00～｜

講師：木下長宏 氏（元 横浜国立大学 教授） 司会：千葉成夫（人文学部共通教育科 教授）

「美の起源について考える」

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホがオランダからパリに移住した1886年、岡倉覚三は東京美術学校設立の準備の一環として欧米視察旅行の途中パリにあった。

ひょっとしたら二人は会っていたかもしれない－という、これまで誰も考えたことがなかった発想から、木下長宏氏は説き起こす。そして、岡倉については、たんにナショナリストとして断罪するのではなく、美術後進国日本（さらにはアジア）にとっての「美術」という問題を真剣に考えた人間として、改めて捉えるべきである。そういう意味での「美術の起源」を彼は考えたのだ、という視点を示した。他方ゴッホについては、一人の人間が「絵画」に向かうとはどういうことか、という問題をある意味で典型的に体現している画家として捉え直すべきである、という視点を提示した。

木下氏のこの講演は、「美術の起源」について、人類史上どこから始まったかという意味ではなく、美術に関わる個々の人間のレヴェルでも考える必要がある、という提言であった。（千葉）

講演風景（中央・講師 木下長宏氏）

11月 | 1月

■ シルクロード企画展示［2011秋季展示］

「カシミアショールとペイズリー文様」

‖ 期間 ‖ 11月15日（火）～2012年１月13日（金）

‖ 会場 ‖ 民族資料博物館 多目的室、１Fエントランス

「19世紀、ヨーロッパの女性たちを虜にした カシミアショールとペイズリー文様　経過と課題」

［企画趣旨］　魅力ある大学博物館を目指して

秋季展示ポスターとチラシ

秋季展示の会場風景

連続講演初回の講演後の展示解説

大学博物館は、学内にある研究資源や収蔵資料を活用した資料の保存及び活用型博物館であり、また学内ばかりでなく地域や社会にも広く活用される生涯学習機関の一つでもある。

資料をより身近な存在とするためには、具体的なテーマや資料を紹介する展示にしなくてはならない。シルクロードや民族資料はなじみある言葉であるが、具体的な資料やモノを表すものではないのであり、より博物館を身近にするため、博物館では小規模であるが、具体的なテーマに関連する様々な企画展示などが行なわれている。

その企画のひとつとして、19世紀を中心としたアジアとヨーロッパを結ぶシルクロード文化交流の歴史的な流れの中で、興味深いテーマである、ペイズリー文様にスポットをあてた。その歴史的な変遷を辿りながら、多様なバリエーションを持つカシミアショールを紹介することで、学内だけでなく多くの市民にもその華麗な美を再認識していただいた。

企画展の課題は、市民と学生の両者を対象とした、いわゆる娯楽と学習の両立をどう図るかである。

大学博物館の使命を考えると、学生と連携すること、授業としてどのように捉えるかが重要である。より教育的な効果を高め、学びの目的や狙いを達成するためには、計画的に学習プログラムや教材が開発され、その上に成り立った魅力ある企画と展示が必要と考えられる。（宇治谷）

1月 | 2月

■ 宮本正興教授 退職記念展

宮本正興とアフリカ世界「人と人は出逢う」

‖ 日時 ‖ 平成 24 年 1 月 20 日（金）～ 2 月 24 日（金）
‖ 会場 ‖ 民族資料博物館　多目的室
‖ 共催 ‖ 大学院国際人間学研究科・国際関係学部・民族資料博物館
‖ 後援 ‖ 日本アフリカ学会中部支部・中部人類学談話会

宮本教授は、日本のアフリカ学をけん引されてきたお一人であり、大阪外国語大学を退職された後、本学で国際関係学部長や大学院国際人間学研究科長を歴任され、本年3月末を以て去られる。

本学国際関係学部は、学部開設以来、国内においては有数のアフリカ研究機関として知られ、その頂点に宮本教授は位置してきた。

日本のアフリカ文学・アフリカ言語研究のパイオニアである宮本教授には、著書・訳書・編書など100冊近くに及ぶアフリカ関連の著作があり、またノーベル文学賞受賞者のウォール・ショインカやケニヤの文学者グギ・ワ・ジオンゴをはじめとするアフリカ人作家との交流も深い。

今回の退職記念展では、宮本教授によるアフリカ学の足跡及び全業績を展示し、また幅広いアフリカ人作家との出会いを紹介した。また宮本教授がアフリカ各地で出会った市井の人々やこどもの写真も展示され、一枚一枚からその優しいお人柄が窺われる。

青木教授デザインの展示チラシ

1月20日、同時開催のシンポジウムパネラーたちと展示室で資料について語る宮本教授と和﨑館長

すでに述べたように、国際関係学部開設以来、本学に在籍したアフリカニストは少なくない。宮本教授が去られることは、大きな痛手だが、先輩たちの築き上げた中部大学のアフリカ学の灯を絶やしてはならないと思っている。

（国際関係学科 教授　青木澄夫）

2月

■ 文化講演

「食文化と博物館 ― 食べるフィールドワーク」

‖ 日時 ‖ 平成24年2月8日（水）15：30 ～
‖ 会場 ‖ 中部大学リサーチセンター
‖ 共催 ‖ 大学院国際人間学研究科国際関係学専攻・民族資料博物館

講師：石毛直道 氏 （国立民族学博物館名誉教授）
司会：渡邊欣雄（中国語中国関係学科 教授）

平成24年2月8日、本学大学院国際人間学研究科国際関係学専攻と民族資料博物館との共催で、上記のような画期的な文化講演会が催された。

開催動機は第一に、本学博物館の略称が大阪の国立民族学博物館と同じ〈民博〉だという発想による。石毛先生をお呼びして講演してもらうことを契機に、大阪〈民博〉との連携関係を持ちたいという希望である。わが〈民博〉は出来てまだ一年にも満たないだけに準備活動が山ほどあるが、多くは大阪〈民博〉が経験済みのことだからだ。

講演案内チラシ

第二の動機は、いま農水省が進めている「日本の食文化の世界無形遺産」申請の動きに対して、食文化に関する知識を得たいという動機による。

世界各地の食文化の遺産化の動きは食物や料理だけが対象ではなく、食材～料理～食事手段～物質文化ほか、広汎な文化理解を必要としている。このような幅広い知識を提供していただけるのは、石毛先生をおいてほかにないであろう。

70名を超える参加者で会場は熱気に溢れていた。

中部大学が石毛先生をお招きして文化講演会を実施した成果は、将来、かならず本学博物館の特色ある展示や活動に結びつくであろう。（渡邊）

写真上　講演風景（講師　石毛直道氏）
写真下　司会による開催主旨説明

3月

■ 作品展示

開館記念特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」受講生作品展

‖ 期間 ‖ 3月21日（水）～3月29日（木）
‖ 会場 ‖ 民族資料博物館　多目的室・1Fエントランス

出品者：開館記念特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」受講生、及び講師（賛助出品）
指　導：下川辰彦（児童教育学科准教授・日本美術院特待）

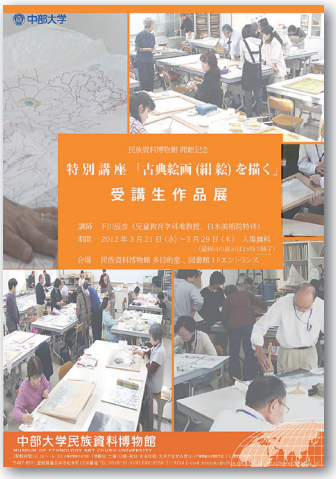
民族資料博物館の開館を記念して、社会人対象の実技型の講座を特別に約半年にわたって開催した。

博物館より、シルクロードにちなんだ企画行事を行っていることに合わせて、特別講座において「絹」を用いた日本画における伝統的な絵画技法を学ぶ場を企画したい、との相談を受け、15回の連続講座と補講1回の計16回にわたって、20名の受講生を迎え、現代教育学部の教室を借りて開催することとなった。

日本では、古くは仏画などで絹を媒体にして描かれてきており、和紙と異なる特殊な技法が受け継がれてきている。

講座での制作風景（右・講師 下川辰彦氏）

例えば、画面の裏面に彩色や金箔を施す裏彩色や、絹地に墨線や顔料をのせるための手法などに独特の工夫をこらす方法など、絹絵特有の知識を要し、さらに絹特有の品格に通じる表現がある。



作品展チラシ

現代の一般的な日本画では扱う事例の少ない絹絵の表現について実技を通して紹介する場所は、他の機関では珍しいため、受講の申し込みには、日本画を長年にわたって制作してきた上級者も数多く、講座の時間は、熱心に取り組む彼らの熱意にあふれ、良い学習環境であったと思う。

作品展示は、受講生各自の制作作品を軸装、または額装に表装し、博物館内の多目的室にて3月21日から29日まで展示し、最終日に受講生らとともに講評会を催した。（下川）

■ コラム

平成23年度大学行事へ参加をして

原田千夏子（民族資料博物館 事務員・学芸員）

大学博物館という立場で、大学にどのようなかたちで貢献できるか、という点を模索しつつ、開館初年度である今年度は、様々な大学行事に参加することから始めてみることとした。

まず、春季は、広報部による開催行事「春のオープンキャンパス」（5月21日）で開館し、学内の他の施設と同様に、高校生やその父兄の見学を受け入れた。続く、高校教員向けの説明会の開催期間（6月15日から17日）に合わせて、国際関係学部の三学科の紹介パネル展示を企画。各学科の協力のもと実施できた。夏季は「夏のオープンキャンパス」（8月5日から7日）にて、国際文化学科による民族衣装や楽器体験の場として、児童教育学科の絵画工作教室における見学先として、当館の展示室や体験実習室が利用された。また、教育フレンドシップ活動に参加する現代教育学部の教員および学生により、地域の児童を対象としたクイズラリーも期間内の午後に開催された。秋季は、三日間にわたって例年行われる大学祭で、大学祭実行委員会が開催する学内の施設を利用したスタンプラリーの会場に参加し、週末をはさむ日程で入館者数は約600名におよんだ。同月に、渉外局による「父母との集い」（春日井キャンパス開催）に休日特別開館をした。通常は平日のみの開館のため、訪れることが難しい親子連れや遠方の訪問者についても、これらの土日開催の行事に特別開館をして開放することで楽しんでいただける機会となった。

結果、在校生だけではなく、児童から中学、高校生、一般社会人まで、幅広い層へ向けて鑑賞の場を提供することにつながった（上記行事の総入館者数は、約1560名におよぶ）。

この他、ふだんの授業期間において、広報部による高校見学受入日に、学内の施設見学先に加えられていることから、高校見学者は12月末までの統計で約1,000人におよぶ。

他部署には、開館初年度の当館の周知に多大な協力を得たことで、このような良好な統計数の結果を出すことができた。しかし、今後は、次なる段階として内容の一層の充実を図っていきたい。

例えば解説表記の充実、展示方法の工夫、体験型のコーナー企画やわかりやすい説明方法などを考案し、博物館へ何度も足を運んでみたいと思っていただける場に発展させていきたい。

大学祭　展示室での見学風景

大学祭　日曜日の午後　～学内を歩く家族連れ

H23年度 当館が参加した 主な大学行事と入館者数

- 5月21日（土）
  春のオープンキャンパス（175名）
- 6月15日（水）～17日（金）
  高校教員説明会（63名）
- 8月5日（金）～7日（日）
  夏のオープンキャンパス（357名）
- 11月1日（火）～3日（木）
  大学祭（593名）
- 11月13日（日）
  父母との集い（182名）

■ TOPIC 1
2012年３月４日～８日
IS プラズマ（国際学会）開催に向けて

シルクロード室、オセアニア地域エリアに英語表記表示の設置

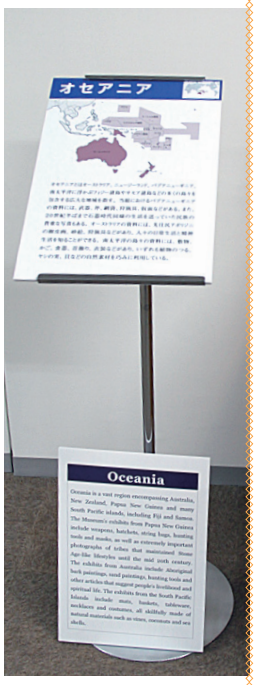
受付付近（挨拶文パネル）

ISプラズマ国際学会が本学にて開催されることを受けて、地域サイン表示と資料名称の一部に英語版を作成し、パネル展示しました。

本学では、海外からの留学生をはじめ、海外姉妹校の来賓や交換滞在の研究者も来館することを想定し、今回のような研究交流の場に貢献できるよう努め、少しずつではありますが、今後も表記に工夫を加えていきたいと考えています。

（左）シルクロード室エリアサインと（右）作品解説

オセアニア資料の名札



（右）オセアニアのエリアサインと（上）写真パネルの題目ガイド表示

■ TOPIC 2

バーミヤーン壁画貸出し

「壁画模写の貸出し」

壁画模写（右：写真パネル）

壁画の搬出の様子

当館所蔵資料『バーミヤーン石窟寺院西大仏一部（天人と菩薩）想定現状模写』を、平成23年秋季から約半年の期間にわたって、龍谷大学の龍谷ミュージアム（京都市下京区）へ貸し出しました。

先方主催の展覧会『龍谷ミュージアム開館記念・親鸞聖人750回大遠忌法要記念～釈尊と親鸞』に展示するためです。

当館スタッフによる職員旅行（11月25日）の際に、龍谷ミュージアムへ施設見学を依頼したところ、学芸員による展示室、およびバックヤードの案内を受け、館長、副館長らとの談話の時間をもうけていただき、丁寧な応対を受け、今後の両館の交流を図っていくむね相互の確認をすることができました。

当館では貸出し期間中の対応として、モノクロ写真パネルを用意し、展示ケース内に設置しました。

現物の帰還は、平成24年3月を予定しています。（原田）

2012 平成24年度 行事案内

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

4月

■ 春季展示　4月2日（月）～26日（木）

「墨に歌う　砂漠の詩」

書家　原田凍谷と書道部学生による和紙と木簡による書の展示

6月

■ 6月～7月

春季連続講演

11月

■ 11月～12月

秋季連続講演

■ 秋季企画展示

シルクロード企画(2)「陶器とタイル(仮称)」